

【分配金のお知らせ】

2012年11月27日

野村アセットマネジメント株式会社

**「野村米国ハイ・イールド債券投信(通貨選択型)」「毎月分配型」の
2012年11月26日決算の分配金について**

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

「野村米国ハイ・イールド債券投信(通貨選択型)」「毎月分配型」の2012年11月26日決算の分配金についてご案内いたします。

今回の決算において、基準価額、ファンドが投資する外国投資信託のポートフォリオの平均最終利回り※、為替ヘッジプレミアム/ヘッジコスト等の水準を勘案し、「ユーロコース」、「豪ドルコース」、「ブラジルリアルコース」、「南アフリカランドコース」および「トルコリラコース」の分配金を引き下げることといたしました。

一方、「円コース」、「米ドルコース」、「通貨セレクトコース」につきましては、前回決算の分配金額から変更しませんでした。

分配金引き下げに関する詳細な説明は、次ページ以降をご参照ください。

※ポートフォリオの平均最終利回りとは、ファンドが投資する外国投資信託の組入債券等(現金を含む)の最終利回りをその組入比率で加重平均したものです(現地通貨建)。

分配金額と基準価額は下表の通りです。

【分配金】(1万口当たり、課税前)

＜2012年11月26日決算＞

ファンド	円コース (毎月分配型)	米ドルコース (毎月分配型)	ユーロコース (毎月分配型)	豪ドルコース (毎月分配型)	ブラジルリアルコース (毎月分配型)	南アフリカランドコース (毎月分配型)	トルコリラコース (毎月分配型)	通貨セレクトコース (毎月分配型)
分配金額	70円	70円	60円	200円	150円	130円	110円	120円
(前回決算)	(70円)	(70円)	(80円)	(250円)	(200円)	(160円)	(130円)	(120円)
決算日の基準価額	10,768円	9,713円	8,534円	10,973円	7,597円	8,282円	7,612円	9,769円
決算日の基準価額(分配金再投資)	14,598円	13,397円	13,115円	22,917円	18,171円	18,218円	15,310円	11,302円
(前回決算)	(14,645円)	(13,133円)	(13,057円)	(22,328円)	(18,188円)	(18,083円)	(14,919円)	(11,163円)
分配金額設定来累計	3,230円	3,230円	4,250円	9,420円	9,460円	9,200円	6,590円	1,440円

* 設定日:各コース(「通貨セレクトコース」を除く)は2009年1月28日、「通貨セレクトコース」は2011年10月27日

* 前回決算:2012年10月25日

* 基準価額(分配金再投資)とは、当初設定時より課税前分配金を再投資したものと計算した価額です。したがって、実際のファンドは課税条件等によって受益者ごとに価額は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮しておりません。

分配金は、投資信託説明書(交付目論見書)記載の「分配の方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合があります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

— 上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。 —

【「毎月分配型」の分配の方針】

分配金額は、分配対象額の範囲で委託会社が決定するものとし、原則として利子・配当等収益等を中心に安定分配を行いません。ただし、基準価額水準等によっては売買益等が中心となる場合があります。また、毎年1月および7月の決算時には、基準価額水準等を勘案し、上記安定分配相当額のほか、分配対象額の範囲内で委託会社が決定する額を付加して分配する場合があります。

※ 「原則として、利子・配当等収益等を中心に安定分配を行なう」方針としていますが、これは、運用による収益が安定したものになることや基準価額が安定的に推移すること等を示唆するものではありません。また、基準価額の水準、運用の状況等によっては安定分配とならない場合があることにご留意下さい。

分配金は、投資信託説明書(交付目論見書)記載の「分配の方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合があります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料中の記載事項は、全て当資料作成以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、債券等の値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります。)ので基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

【ご参考:設定来の毎月の分配金実績】(1万口当たり、課税前)

コース	期間(年/月)	2009/3	2009/4~ 2009/6	2009/7~ 2009/10	2009/11~ 2010/5	2010/6~ 2011/8	2011/9~ 2011/11	2011/12~ 2012/5	2012/6~ 2012/10	2012/11	
円コース(毎月分配型)		90円			70円						
米ドルコース(毎月分配型)		90円			70円						
ユーロコース(毎月分配型)		100円	90円	80円	100円				80円	60円	
豪ドルコース(毎月分配型)		120円		110円	150円	250円				200円	
ブラジルリアルコース(毎月分配型)		180円		160円	200円	250円	200円			150円	
南アフリカランドコース(毎月分配型)		170円		160円	200円	250円	200円		160円	130円	
トルコリラコース(毎月分配型)		220円	180円	150円			130円			110円	
通貨セレクトコース(毎月分配型)		-							120円		

*設定日:各コース(「通貨セレクトコース」を除く)は2009年1月28日、「通貨セレクトコース」は2011年10月27日

分配金は、投資信託説明書(交付目論見書)記載の「分配の方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合があります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

— 上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。 —

【ご参考:投資環境】

《米国ハイ・イールド債の利回りの推移》

米国ハイ・イールド債(BB~B格)の最終利回り(償還期限まで所有した場合の利回り)は、2009年1月末(ファンド設定月の月末)はリーマン・ショックからまだ間もなかったことから14.6%と高い水準でしたが、その後は低下基調で推移しました。2011年8月~9月に欧州債務危機等による信用不安から一時的に上昇しましたが、直近の2012年10月末には5.6%まで低下し、2009年1月以降最も低い水準となりました。また、債券価格に対して1年間に支払われる利息収入の割合を表す直接利回りも、2012年10月末7.1%と最も低い水準となりました。

最終利回りの低下により債券価格は上昇し、基準価額にプラスに寄与しました。一方、ファンドへの資金流入などに伴い利回りが低下した債券への投資を新たに行なったことなどから、ファンドのインカムゲイン(利息収入)は低下しました。

＜米国ハイ・イールド債(BB~B格)の利回りの推移(米ドル建て、課税前)＞

期間:2009年1月~2012年10月(月末値)



(出所)ブルームバーグのデータに基づき野村アセットマネジメント作成

米国ハイ・イールド債(BB~B格)の利回り:BofA・メルリンチ・USハイ・イールド・キャッシュ・ペイ・BB-Bレイトド・コンストレインド・インデックス

BofA・メルリンチ・USハイ・イールド・キャッシュ・ペイ・BB-Bレイトド・コンストレインド・インデックス(BofA Merrill Lynch US High Yield, Cash Pay, BB-B Rated, Constrained Index)に関する一切の知的財産権その他一切の権利はバンクオブアメリカ・メルリンチに帰属します。

— 上記は過去のデータであり、将来の投資効果を示唆あるいは保証するものではありません。 —
— また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。 —

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料中の記載事項は、全て当資料作成以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、債券等の値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります。)ので基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

【分配金を引き下げた各コースの説明】

《ユーロコース(毎月分配型)》

今回の決算におきまして、「ユーロコース」の分配金を80円から60円に引き下げました。

当コースは、2012年6月25日決算において分配金を100円から80円に引き下げましたが、その後も依然として基準価額は、8,000円を挟む水準で推移しました。

市場環境においては、米国ハイ・イールド債のインカムゲインが低下したほか(2ページご参照)、ユーロの短期金利の低下(2012年6月末0.3%から2012年10月末0.1%)に伴い為替ヘッジプレミアムが低下しました。

以上より、米国ハイ・イールド債のインカムゲインや為替ヘッジプレミアムの低下、基準価額が8,000円近辺での水準が続いていることなどを総合的に鑑み、今回の決算において分配金を引き下げることにしました。

＜基準価額の推移＞

期間：2009年1月28日(設定日)～2012年11月26日、日次



分配金変更日(決算日)における分配金と基準価額

決算日	分配金*	基準価額	基準価額 (分配金再投資)
2009年4月27日	90円	10,736円	10,924円
2009年7月27日	80円	11,532円	12,006円
2009年11月25日	100円	11,850円	12,692円
2012年6月25日	80円	8,289円	12,170円
2012年11月26日	60円	8,534円	13,115円

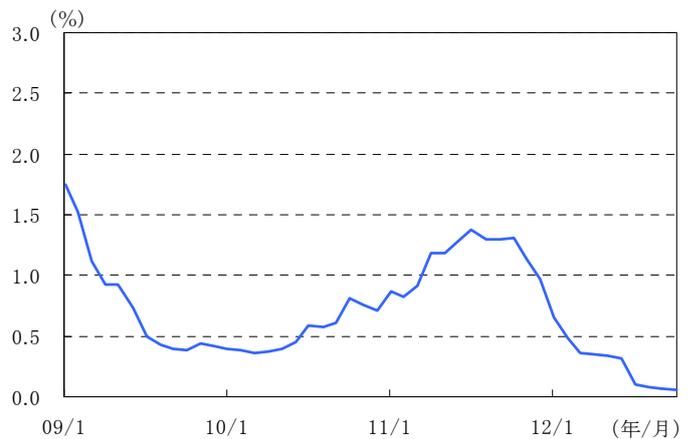
※1万円当たり、課税前

＜ユーロ(対円)の為替レートの推移＞
2009年1月～2012年10月(月末値)



(出所)ブルームバーグのデータに基づき野村アセットマネジメント作成

＜ユーロの短期金利の推移＞
2009年1月～2012年10月(月末値)



(出所)ブルームバーグのデータに基づき野村アセットマネジメント作成
使用した通貨の短期金利は10ページの「使用した短期金利について」をご参照ください。

基準価額(分配金再投資)とは、当初設定時より課税前分配金を再投資したもとして計算した価額です。したがって、実際のファンドは課税条件等によって受益者ごとに価額は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮しておりません。

—上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。—

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料中の記載事項は、全て当資料作成以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、債券等の値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります。)ので基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目録見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

【分配金を引き下げた各コースの説明】

《豪ドルコース(毎月分配型)》

今回の決算におきまして、「豪ドルコース」の分配金を250円から200円に引き下げました。

当コースは、2010年6月25日決算において分配金を150円から250円に引き上げました。分配金引き上げ時の基準価額は14,000円弱で、その後は2011年7月頃までは概ね14,000前後で推移し、2011年8月頃から2012年5月頃までは概ね12,000円前後、2012年6月以降は概ね11,000円前後まで下落しました。2010年6月25日の分配金引き上げから今回の決算までの騰落率をみますと、基準価額(分配金再投資)は42.2%上昇しているものの、基準価額は19.9%下落しました。

市場環境においては、米国ハイ・イールド債のインカムゲインが低下したほか(2ページご参照)、豪ドルの短期金利の低下(2010年6月末4.8%から2012年10月末3.3%)に伴い為替ヘッジプレミアムが低下しました。

以上より、2010年6月の分配金引き上げ以降、基準価額の下落、米国ハイ・イールド債のインカムゲインや為替ヘッジプレミアムの低下などを総合的に鑑み、今回の決算において分配金を引き下げることにしました。

＜基準価額の推移＞

期間:2009年1月28日(設定日)～2012年11月26日、日次



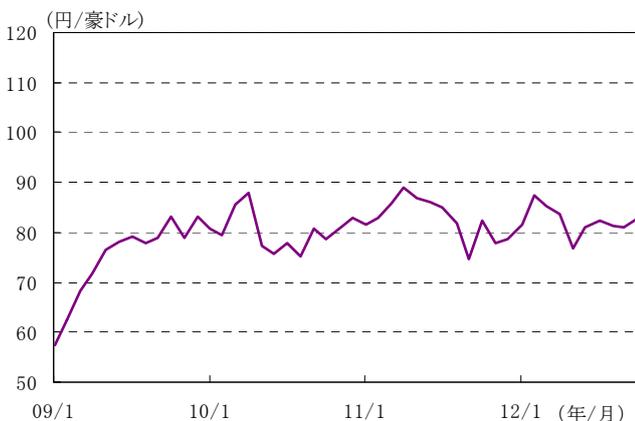
分配金変更日(決算日)における分配金と基準価額

決算日	分配金※	基準価額	基準価額 (分配金再投資)
2009年7月27日	110円	13,083円	13,731円
2009年11月25日	150円	14,463円	15,697円
2010年6月25日	250円	13,703円	16,111円
2012年11月26日	200円	10,973円	22,917円

※1万円当たり、課税前

＜豪ドル(対円)の為替レートの推移＞

2009年1月～2012年10月(月末値)



＜豪ドルの短期金利の推移＞

2009年1月～2012年10月(月末値)



(出所)ブルームバーグのデータに基づき野村アセットマネジメント作成

(出所)ブルームバーグのデータに基づき野村アセットマネジメント作成
使用した通貨の短期金利は10ページの「使用した短期金利について」をご参照ください。

基準価額(分配金再投資)とは、当初設定時より課税前分配金を再投資したものとして計算した価額です。したがって、実際のファンドは課税条件等によって受益者ごとに価額は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮しておりません。

—上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。—

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料中の記載事項は、全て当資料作成以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、債券等の値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります。)ので基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目録見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

【分配金を引き下げた各コースの説明】

《ブラジルリアルコース(毎月分配型)》

今回の決算におきまして、「ブラジルリアルコース」の分配金を200円から150円に引き下げました。

当コースは、2011年9月26日決算において分配金を250円から200円に引き下げました。分配金引き下げ以降、基準価額が10,000円を回復する時期もありましたが、2012年3月以降は下落基調が続き、7,000円台まで下落しました。2011年9月26日の分配金引き下げから今回の決算までの騰落率をみますと、基準価額(分配金再投資)は17.4%上昇しているものの、基準価額は14.8%下落しました。

市場環境においては、ブラジルリアル(対円)の為替レートは、2011年9月以降、2012年2月末に47.5円まで上昇しましたが、その後2012年10月末に39.3円まで下落し、基準価額を下げる要因となりました。また、米国ハイ・イールド債のインカムゲインが低下したほか(2ページご参照)、ブラジルリアルの短期金利の低下(2011年9月末11.6%から2012年10月末7.1%)に伴い為替ヘッジプレミアムが低下しました。

以上より、2011年9月の分配金引き下げ以降、ブラジルリアル(対円)の為替レートの下落によって基準価額が下落したことに加え、米国ハイ・イールド債のインカムゲインの低下や為替ヘッジプレミアムの低下などを総合的に鑑み、今回の決算において分配金を引き下げることとしました。

＜基準価額の推移＞

期間:2009年1月28日(設定日)～2012年11月26日、日次

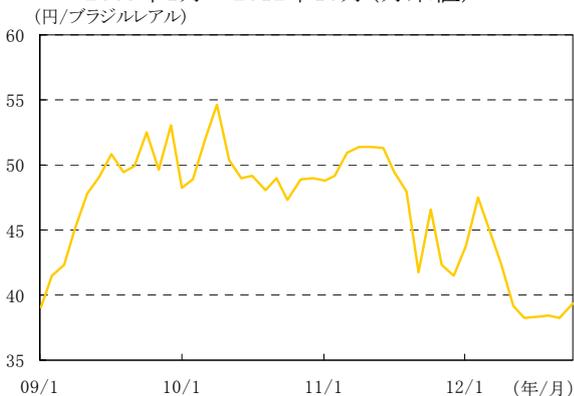


分配金変更日(決算日)における分配金と基準価額

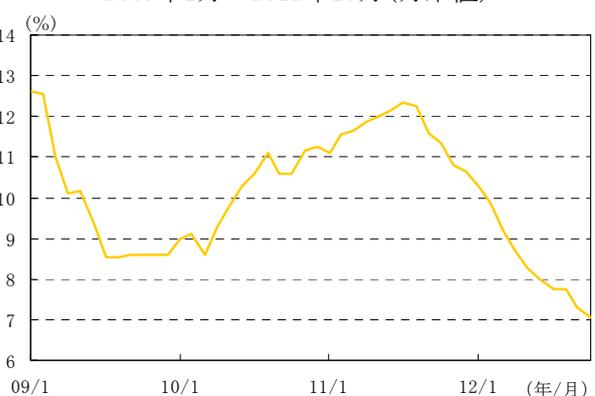
決算日	分配金※	基準価額	基準価額 (分配金再投資)
2009年7月27日	160円	12,412円	13,403円
2009年11月25日	200円	13,239円	15,045円
2010年6月25日	250円	12,630円	16,041円
2011年9月26日	200円	8,914円	15,477円
2012年11月26日	150円	7,597円	18,171円

※1万円当たり、課税前

＜ブラジルリアル(対円)の為替レートの推移＞
2009年1月～2012年10月(月末値)



＜ブラジルリアルの短期金利の推移＞
2009年1月～2012年10月(月末値)



(出所)ブルームバーグのデータに基づき野村アセットマネジメント作成

(出所)ブルームバーグのデータに基づき野村アセットマネジメント作成
使用した通貨の短期金利は10ページの「使用した短期金利について」をご参照ください。

基準価額(分配金再投資)とは、当初設定時より課税前分配金を再投資したものととして計算した価額です。したがって、実際のファンドは課税条件等によって受益者ごとに価額は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮しておりません。

—上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。—

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料中の記載事項は、全て当資料作成以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、債券等の値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります。)ので基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目録見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

【分配金を引き下げた各コースの説明】

◀南アフリカランドコース(毎月分配型)▶

今回の決算におきまして、「南アフリカランドコース」の分配金を160円から130円に引き下げました。

当コースは、2012年6月25日決算において分配金を200円から160円に引き下げましたが、足元では基準価額は8,000円台での推移が継続しました。

市場環境においては、米国ハイ・イールド債のインカムゲインが低下したほか(2ページご参照)、南アフリカランドの短期金利の低下(2012年6月末5.5%から2012年10月末4.9%)に伴い為替ヘッジプレミアムが低下しました。

以上より、米国ハイ・イールド債のインカムゲインや為替ヘッジプレミアムの低下、基準価額が8,000円台での水準が続いていることなどを総合的に鑑み、今回の決算において分配金を引き下げることにしました。

◀基準価額の推移▶

期間:2009年1月28日(設定日)~2012年11月26日、日次



分配金変更日(決算日)における分配金と基準価額

決算日	分配金※	基準価額	基準価額 (分配金再投資)
2009年7月27日	160円	13,581円	14,535円
2009年11月25日	200円	13,699円	15,392円
2010年6月25日	250円	13,584円	16,937円
2011年9月26日	200円	9,200円	15,343円
2012年6月25日	160円	8,828円	17,753円
2012年11月26日	130円	8,282円	18,218円

※1万円当たり、課税前

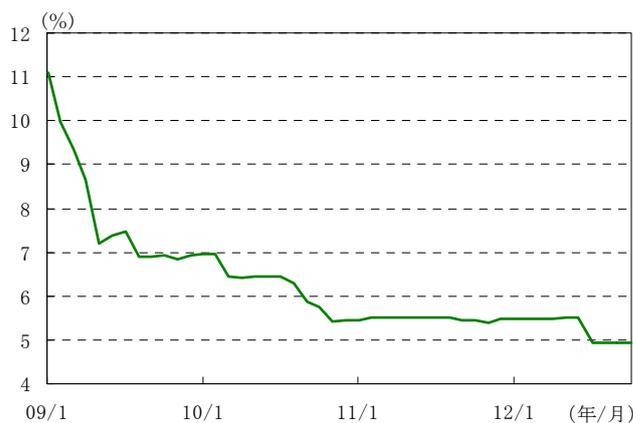
◀南アフリカランド(対円)の為替レートの推移▶

2009年1月~2012年10月(月末値)



◀南アフリカランドの短期金利の推移▶

2009年1月~2012年10月(月末値)



(出所)ブルームバーグのデータに基づき野村アセットマネジメント作成

(出所)ブルームバーグのデータに基づき野村アセットマネジメント作成
使用した通貨の短期金利は10ページの「使用した短期金利について」をご参照
ください。

基準価額(分配金再投資)とは、当初設定時より課税前分配金を再投資したもとして計算した価額です。したがって、実際のファンドは課税条件等によって受益者ごとに価額は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

—上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。—

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料中の記載事項は、全て当資料作成以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、債券等の値動きのある有価証券等を実質的に投資します(また、外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります。)ので基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目録見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

【分配金を引き下げた各コースの説明】

《トルコリラコース(毎月分配型)》

今回の決算におきまして、「トルコリラコース」の分配金を130円から110円に引き下げました。

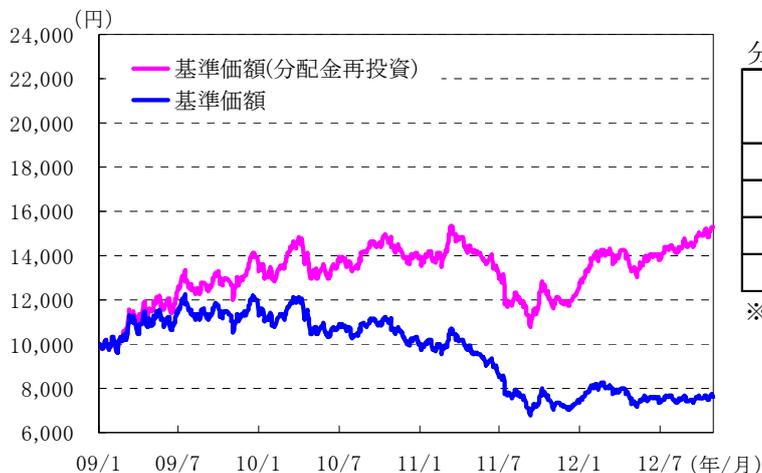
当コースは、2011年9月26日決算において分配金を150円から130円に引き下げましたが、依然として基準価額は、7,000円台での推移が継続しました。

市場環境においては、米国ハイ・イールド債のインカムゲインが低下したほか(2ページご参照)、トルコリラの短期金利の低下(2011年9月末7.5%から2012年10月末6.0%)に伴う為替ヘッジプレミアムが低下しました。

以上より、米国ハイ・イールド債のインカムゲインや為替ヘッジプレミアムの低下、基準価額が7,000円台での水準が続いていることなどを総合的に鑑み、今回の決算において分配金を引き下げることにしました。

＜基準価額の推移＞

期間：2009年1月28日(設定日)～2012年11月26日、日次



分配金変更日(決算日)における分配金と基準価額

決算日	分配金*	基準価額	基準価額 (分配金再投資)
2009年4月27日	180円	10,476円	10,882円
2009年7月27日	150円	11,420円	12,422円
2011年9月26日	130円	7,373円	11,684円
2012年11月26日	110円	7,612円	15,310円

※1万口当たり、課税前

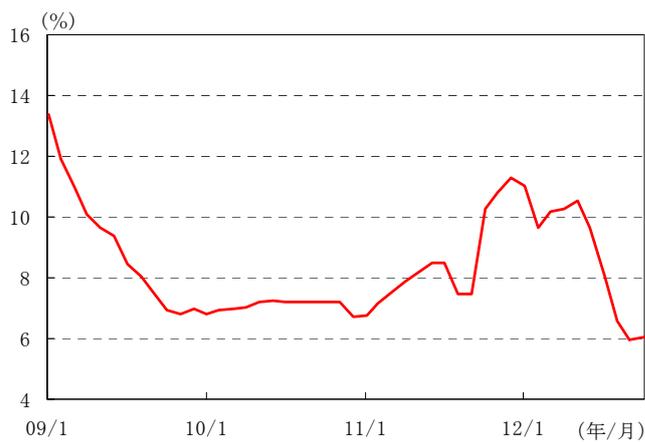
＜トルコリラ(対円)の為替レートの推移＞

2009年1月～2012年10月(月末値)



＜トルコリラの短期金利の推移＞

2009年1月～2012年10月(月末値)



(出所)ブルームバーグのデータに基づき野村アセットマネジメント作成

(出所)ブルームバーグのデータに基づき野村アセットマネジメント作成
使用した通貨の短期金利は10ページの「使用した短期金利について」をご参照
ください。

基準価額(分配金再投資)とは、当初設定時より課税前分配金を再投資したもとして計算した価額です。したがって、実際のファンドは課税条件等によって受益者ごとに価額は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮しておりません。

— 上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。 —

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料中の記載事項は、全て当資料作成以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、債券等の値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります。)ので基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目録見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

《米国ハイ・イールド債市場の見通し(2012年10月末現在)》

(ファンドが投資対象とする外国投資信託の投資顧問会社であるノムラ・コーポレート・リサーチ・アンド・アセット・マネージメント・インクの情報に基づき野村アセットマネジメント作成)

米国ハイ・イールド債市場は、「財政の崖」問題等の不透明感の中でも好調に推移してきており、米国経済が中央銀行の積極的な金融政策の恩恵を受けながら緩やかな経済成長を達成するという見通しのもと、今後も堅調に推移すると考えています。米国ハイ・イールド債の利回りは歴史的な低水準で推移していますが、米国国債も同様に歴史的な低利回りでの推移となっており、国債との利回り格差は引き続き相対的に高い水準にあると考えています。新規発行市場は現在の低水準の米国債利回りを背景に資金流入が進んでおり、良好な需給環境となっています。また、過去3年間における新規発行の多くは借入コストの高い既存債券の借換え目的で発行されており、借換えによる償還期限延長が進んだこと等で企業のファンダメンタルズ(基礎的条件)は改善傾向にあります。健全な資本市場、低水準の債務償還額、米国経済の緩やかな経済成長等を背景に、デフォルト(債務不履行)率は今後数年間低水準で推移すると見込んでいます。

業種別では、低水準の在庫や歴史的な低金利などを背景に改善傾向にある住宅市場の関連銘柄や、経済成長の恩恵を受けるであろう自動車関連の銘柄等を強気に見ています。

引き続き市場環境を注視してまいります。足元では大統領戦の結果が「財政の崖」問題に対して与える影響について特に注意深く見えています。従来どおり、個別企業のクレジット分析による潜在的な問題の回避が超過収益獲得の鍵であるという考えのもと、今後も投資を行なってまいります。

《為替市場の動向と見通し》

2012年の為替市場の動きを米ドルの実効相場で見ると、欧州債務問題や中国景気減速懸念など不安が最も高まった5、6月に最も上昇し、その後8、9月にかけて欧州債務問題が小康状態になるにつれて反落し、足元11月では世界景気の先行きに対する不安から再び小幅上昇しています。

但し、米ドルの対円相場という点では、2012年は不安要因発生時の逃避先として世界の通貨の中で「円」が最も注目を集めたため、(米ドルの対円相場は)他の通貨とは逆に、不安要因発生の際に米ドル安・円高となる傾向がありました。一方、円ドル相場の先行きについては、日本の解散総選挙が決まったことで、市場参加者の間では、次期政権が円安につながる政策を打ち出すかどうかについて最も注目されています。

＜ユーロ＞

ユーロ圏では、ギリシャを始めとした欧州債務問題の発生に対して様々な支援策がなされてきました。現在交渉中のものも含めると、欧州中央銀行の利下げなどの金融緩和政策、ギリシャで行なわれたような緊急避難的な債務再編、今後債務問題が発生した際に支援するための枠組み作り、国債利回りが過度に上昇して財政問題を自助努力で解決できなくなることを防ぐための国債買入スキーム、金融システムの安定を保つための銀行監督体制の改善、など多種類の対策が出ています。

これらを受けて、ユーロの対米ドル相場は2012年7月末を底に反発しました。しかし、市場参加者の間では、財政緊縮政策が景気回復の動きを抑えてしまう可能性などユーロ圏景気の先行きに対する懸念が根強く残っています。

ユーロ相場の先行きについては市場参加者の間で多様な見方が出ています。その中でユーロ高要因として米国金融緩和によりユーロが相対的に有利になるという点もありますが、ユーロ圏の輸出主導の景気回復のために政策当局はある程度のユーロ安を容認するのではないかという見方が体勢的です。

<豪ドル>

豪州は、2012年10月初旬に利下げを行ないましたが、主要輸出先である中国の景気が減速していることや、国内の資源投資動向や労働市場動向などについても中央銀行が慎重な見方をしていることから、市場参加者の間では追加緩和の可能性が取りざたされています。足元では米国での追加量的緩和などの影響で豪州に投資資金が流入して豪ドル相場が押し上げられていますが、過度の豪ドル高が景気に悪影響を与えることを懸念する発言も中央銀行関係者から出ています。

しかしながら、豪ドル相場の先行きについては市場参加者の間では、欧州債務問題や米国の財政の崖問題などの存在に対して消去法的に豪ドルを選ぶという見方が強いようです。

<ブラジルレアル>

ブラジルは、成長率が伸び悩む中で、昨年から10回目の利下げを10月中旬に実施し、政策金利を過去最低水準まで引き下げています。ただし、既に5%強もの利下げを行なっていることから、市場参加者の間では、今後ブラジル中銀は単に利下げを行なうだけではなく、他の政策手段も含めた複合的な政策アプローチに変化していくと見られているようです。

また、来年にかけて利下げが打ち止めとなることも想定されており、2013年に利上げまで進む可能性について、政策当局者の発言が注目されています。このような環境の下で市場参加者の間では通貨レアルは安定基調が続くという見方が主流になっています。

<南アフリカランド>

南アフリカは、7月に約2年ぶりに利下げを行なった後は政策金利を据え置いています。これまで欧州問題に際しても個人消費は比較的堅調でしたが、8月以降拡大した大規模ストライキによる国内景気への悪影響が出ています。

これまで南アフリカは、景気・インフレ・対外収支それぞれのバランスを考慮した政策対応が市場参加者から評価されてきましたが、足元ではインフレの問題がある中で景気が減速するなど政策手詰まりの兆しが見られ始めています。通貨ランドは、相対的な高金利と、前述の経済バランスが不安定になり始めたことへの警戒感の間での綱引きという構図が続いており、今後も注視する必要があります。

<トルコリラ>

トルコは、日々の短期金利誘導を通じてトルコリラの為替レートを安定させることでインフレをコントロールする政策運営をしています。足元数ヵ月間において、格付け会社フィッチによるトルコの格上げや米国金融緩和に伴いトルコへの資本流入が再び増勢を強めているため、同国中銀はトルコリラへの上昇圧力緩和を図るため金融緩和姿勢への転換を明確にしております。

トルコ中銀は政策金利の実質上の上限となる中銀貸出金利を9、10、11月と3ヵ月連続で引下げたうえで、今後トルコリラへの上昇圧力が強まる場合には追加的な金融緩和を検討するとの見方を示しています。11月声明では追加利下げを示唆する内容が盛り込まれました。

インフレが同国中銀の目標を上回る現状において、トルコリラを大幅に減価させるインセンティブは低いものの、一方で、対外ファイナンスへの依存の高さからトルコリラが引き続き資本流出圧力に脆弱な通貨であることや、過度な金融緩和により国内経済が過熱し、改善が進んできた経常収支が再び悪化する可能性を排除できないことは、先行きトルコリラ上昇を抑える要因になると考えられます。

【ご参考】

＜通貨セレクトコースの選定通貨＞

通貨セレクトコースにおける2012年11月6日現在の基本配分比率は、以下の表のとおりです。

なお、11月月初に行なわれた基本配分比率の変更では、ブラジルレアルを15%程度から20%程度に引き上げた一方で、トルコリラを20%程度から15%程度に引き下げました。

＜選定通貨の基本配分比率(2012年11月6日現在)＞

選定通貨	基本配分比率
ロシアルーブル	25%程度
インドルピー	25%程度
ブラジルレアル	20%程度
トルコリラ	15%程度
インドネシアルピア	15%程度

- ・選定通貨は、定期的に(原則、毎月)見直しを行いません。
- ・各選定通貨での為替ヘッジは、ファンドが投資する外国投資信託で行いません。
- ・上記は基本配分比率であり、実際の選定通貨の配分比率とは異なります。

—上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。—

以上

【使用した短期金利について】

ユーロ:1ヵ月LIBOR、豪ドル:1ヵ月LIBOR、ブラジルレアル:CD(譲渡性預金証書)レート1ヵ月、
南アフリカランド:ヨハネスブルグ・インターバンク・アグリード・レート1ヵ月、トルコリラ:1ヵ月LIBOR

【ファンドの特色】

- 「野村米国ハイ・イールド債券投信(通貨選択型)」は、17本のファンド(「毎月分配型」と「年2回決算型」を有する、為替ヘッジ手法の異なる8つのコース(円コース、米ドルコース、ユーロコース、豪ドルコース、ブラジルリアルコース、南アフリカランドコース、トルコリラコース、通貨セレクトコース)およびマネープールファンド(年2回決算型))から構成されています。
- 各コース(マネープールファンドを除く8つのコースを総称して「各コース」といいます。)
 - ◆高水準のインカムゲインの確保と中長期的な信託財産の成長を図ることを目的として運用を行ないます。
 - ◆米ドル建ての高利回り事業債(ハイ・イールド・ボンド)を実質的な主要投資対象*とします。
※「実質的な主要投資対象」とは、外国投資信託や「野村マネー マザーファンド」を通じて投資する、主要な投資対象という意味です。
 - ◆円建ての外国投資信託「ノムラ・ケイマン・ハイ・イールド・ファンド」および国内投資信託「野村マネー マザーファンド」を投資対象とします。

・「ノムラ・ケイマン・ハイ・イールド・ファンド」には、為替ヘッジ手法の異なる8つのクラスがあります。

各コース	各コースが投資対象とする外国投資信託の為替ヘッジ手法
円コース (毎月分配型)／(年2回決算型)	米ドル建て資産を、原則として対円で為替ヘッジを行ないます。
米ドルコース (毎月分配型)／(年2回決算型)	米ドル建て資産に対し、原則として為替ヘッジを行ないません。
ユーロコース (毎月分配型)／(年2回決算型)	米ドル建て資産を、原則として対ユーロで為替ヘッジを行ないます。
豪ドルコース (毎月分配型)／(年2回決算型)	米ドル建て資産を、原則として対豪ドルで為替ヘッジを行ないます。
ブラジルリアルコース (毎月分配型)／(年2回決算型)	米ドル建て資産を、原則として対ブラジルリアルで為替ヘッジを行ないます。
南アフリカランドコース (毎月分配型)／(年2回決算型)	米ドル建て資産を、原則として対南アフリカランドで為替ヘッジを行ないます。
トルコリラコース (毎月分配型)／(年2回決算型)	米ドル建て資産を、原則として対トルコリラで為替ヘッジを行ないます。
通貨セレクトコース (毎月分配型)／(年2回決算型)	米ドル建て資産を、原則として対選定通貨*(米ドルを除く)で為替ヘッジを行ないます。

※選定通貨は、投資対象とする外国投資信託の副投資顧問会社が選定した通貨を指します。
詳細は、交付目録見書の「各コースが投資対象とする外国投資信託の概要」の投資方針をご覧ください。

- ◆通常の場合においては、「ノムラ・ケイマン・ハイ・イールド・ファンド」への投資を中心としますが、投資比率には特に制限は設けず、各投資対象ファンドの収益性および流動性ならびにファンドの資金動向等を勘案のうえ決定することを基本とします。
※通常の場合においては、「ノムラ・ケイマン・ハイ・イールド・ファンド」への投資比率は、概ね90%以上を目処とします。
- ◆各コースはファンド・オブ・ファンズ方式で運用します。

●マネープールファンド

- ◆安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行ないます。
- ◆円建ての短期有価証券を実質的な主要投資対象*とします。
※「実質的な主要投資対象」とは、「野村マネー マザーファンド」を通じて投資する、主要な投資対象という意味です。
- ◆「野村マネー マザーファンド」への投資を通じて、残存期間の短い公社債やコマーシャル・ペーパー等の短期有価証券への投資により利息等収益の確保を図り、あわせてコール・ローンなどで運用を行なうことで流動性の確保を図ります。
- ◆ファンドは「野村マネー マザーファンド」を通じて投資するファミリーファンド方式で運用します。

●「野村米国ハイ・イールド債券投信(通貨選択型)」を構成する「毎月分配型」のファンド間および「年2回決算型」のファンド間でスイッチングができます。

●分配の方針

◆毎月分配型

原則、毎月25日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行ないます。
分配金額は、分配対象額の範囲で委託会社が決定するものとし、原則として利子・配当等収益等を中心に安定分配を行ないます。ただし、基準価額水準等によっては売買益等が中心となる場合があります。また、毎年1月および7月の決算時には、基準価額水準等を勘案し、上記安定分配相当額のほか、分配対象額の範囲内で委託会社が決定する額を付加して分配する場合があります。
※「原則として、利子・配当等収益等を中心に安定分配を行なう」方針としていますが、これは、運用による収益が安定したものになることや基準価額が安定的に推移すること等を示唆するものではありません。また、基準価額水準、運用の状況等によっては安定分配とならない場合があるにご留意下さい。

◆年2回決算型

・各コース

原則、毎年1月および7月の25日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行ないます。
分配金額は、分配対象額の範囲で、原則として利子・配当等収益等および基準価額水準等を勘案して委託会社が決定するものとします。

・マネープールファンド

原則、毎年1月および7月の25日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行ないます。
分配金額は、原則として基準価額水準等を勘案して委託会社が決定します。

*委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料中の記載事項は、全て当資料作成以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、債券等の値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります。)ので基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目録見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

【投資リスク】

各ファンド(「マネープールファンド(年2回決算型)」を除く)は、投資信託証券への投資を通じて、債券等に実質的に投資する効果を有しますので、金利変動等による当該債券の価格下落や、当該債券の発行体の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替の変動により基準価額が下落することがあります。「マネープールファンド(年2回決算型)」は、債券等を実質的な投資対象としますので、金利変動等による組入債券の価格下落や、組入債券の発行体の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

【お申込メモ】

- 信託期間 平成31年1月27日まで
(「各コース(通貨セレクトコースを除く)およびマネープールファンド」:平成21年1月28日設定)
(「通貨セレクトコース」:平成23年10月27日設定)
- 決算日および収益分配 【毎月分配型】年12回の決算時(原則、毎月25日。休業日の場合は翌営業日)に分配の方針に基づき分配します。
【年2回決算型】年2回の決算時(原則、1月および7月の25日。休業日の場合は翌営業日)に分配の方針に基づき分配します。
- ご購入価額 ご購入申込日の翌々営業日の基準価額
- ご購入単位 1万口以上1万口単位(当初元本1口=1円)
または1万円以上1円単位
なお、マネープールファンドは、年2回決算型の他のファンドからのスイッチング以外によるご購入はできません。
※ご購入単位は販売会社によって異なる場合があります。
- ご換金価額 【各コース】ご換金申込日の翌々営業日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額
- スイッチング 【マネープールファンド】ご換金申込日の翌々営業日の基準価額「毎月分配型」のファンド間および「年2回決算型」のファンド間でスイッチングが可能です。
※販売会社によっては、一部または全部のスイッチングのお取扱いを行わない場合があります。
- お申込不可日 各コースは、販売会社の営業日であっても、申込日当日あるいは申込日の翌営業日が、下記のいずれかの休業日に該当する場合は12月24日である場合には、原則、ご購入、ご換金、スイッチングの各お申込みができません。
・ニューヨーク証券取引所 ・ニューヨークの銀行
・ロンドンの銀行 ・ルクセンブルクの銀行
- 課税関係 個人の場合、原則として分配時の普通分配金ならびに換金時(スイッチングを含む)および償還時の譲渡益に対して課税されます。なお、税法が改正された場合などには、内容が変更になる場合があります。

【当ファンドに係る費用】

(2012年11月現在)

◆ご購入時手数料	ご購入価額に3.15%(税抜3.0%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 <スイッチング時> 販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 なお、「マネープールファンド」へのスイッチングの場合は無手数料 ※詳しくは販売会社にご確認ください。
◆運用管理費用(信託報酬)	【各コース】 ファンドの純資産総額に年0.924%(税抜年0.88%)の率を乗じて得た額が、お客様の保有期間に応じてかかります。 ○実質的にご負担いただく信託報酬率 ・各コース(通貨セレクトコースを除く):年1.624%程度(税込) ・「通貨セレクトコース」:年1.774%程度*(税込) *純資産総額によっては、記載の信託報酬率を下回る場合があります。 ※ファンドが投資対象とする外国投資信託の信託報酬を加味して、投資者が実質的に負担する信託報酬率について算出したものです。 【マネープールファンド】 ファンドの純資産総額に年0.5775%(税抜年0.55%)以内(平成24年10月19日現在年0.021%(税抜年0.02%))の率を乗じて得た額が、お客様の保有期間に応じてかかります。
◆その他の費用・手数料	組入価値証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、ファンドに関する租税、監査費用等がお客様の保有期間中、その都度かかります。 ※これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。
◆信託財産留保額(ご換金時、スイッチングを含む)	【各コース】 1万口につき基準価額に0.3%の率を乗じて得た額 【マネープールファンド】 ありません。

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に依り異なりますので、表示することができません。
※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

◆お申込みは

野村証券

商号:野村証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第142号
加入協会:日本証券業協会/一般社団法人日本投資顧問業協会/
一般社団法人金融先物取引業協会/
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

◆設定・運用は

野村アセットマネジメント

商号:野村アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号
加入協会:社団法人投資信託協会/
一般社団法人日本投資顧問業協会

ファンドの基準価額等についてのお問い合わせ先:野村アセットマネジメント株式会社

★サポートダイヤル★ ☎0120-753104

(受付時間)営業日の午前9時~午後5時



★インターネットホームページ★

http://www.nomura-am.co.jp/



★携帯サイト★

http://www.nomura-am.co.jp/mobile/

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料中の記載事項は、全て当資料作成以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、債券等の値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります。)ので基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しの投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。